

# 農農研東北支部だより

第16号 2012年10月24日

発行 農業農協問題研究所東北支部  
青森市大字高田字川瀬156-2 青森県農協労組内  
TEL: 017-729-0447 FAX: 017-729-0448  
e-mail: anr@sea.plala.or.jp

## 2012研究例会・第22回総会



農業農協問題研究所東北支部（神田健策支部長）は10月6日～7日、福島市の「コラッセふくしま」において、研究例会と総会を開催。東北各県から33名が参加しました。

### 基調講演

「集落再生の基本構図」をテーマに講演した徳島大学名誉教授の中嶋信先生は、3.11後の事態は、成長至上主義の国土構造と、新自由主義・グローバル化、原発推進、増税と福祉削減など、地方・弱者を切り捨ててきた「この国のかたち」の集約的表現だ。そして、復興が進まないのは 憲法第25条（すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する）の推進装置力の弱さ（市町村の権限と力量の不備）、復興戦略の構造的欠陥、危機管理能力の低さ、被災者目線の欠落（主権者による自治を無視）にあると指摘しました。



その上で、東北復興と集落再生には、住民団体・集落住民と外部団体・個人との対等な協力関係も必要。そして、集落づくりには、生産補完機能、資源管理機能、生活扶助機能（良質な生活支援サービス）が求められる。また、気仙沼防潮堤を勉強する会や石巻住まいと復興を考える会の活動を紹介しながら、自治力を自立的に高める工夫も必要だとの述べました。

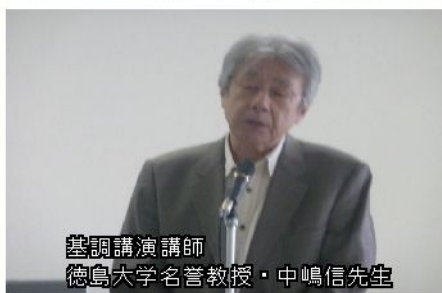
最後に、この国のかたちを正すには幅広い連帯が不可欠で、住民目線の復興支援とともに、原発ゼロ運動やTPP阻止等「構造改革」政策に反対する運動との連動を強調しました。

### 報告1

J Aいわい東・営農部生産資材課の千田雅行課長が「放射能被害の取り組みとTPP参加反対両撃地



あいさつする神田 健策支部長  
(弘前大学副学長)



基調講演講師  
徳島大学名誉教授・中嶋信先生



岩手・報告者  
J Aいわい東・営農部生産資材課  
千田雅行課長



福島・報告者  
ふくしま土壌クラブ・高橋賢一代表

域の会結成」について報告。

主な取り組みは、東電への損害賠償請求（酪農家140戸、繁殖農家852戸、肥育農家40戸、椎茸農家79戸）、代替粗飼料の供給（日量約50t）、草地再生対策事業（除染）で、今年4月からは放射能対策チームを設置。これらの取り組みに加え、堆肥、培土、土壌、農畜産物の予備測定を行っている。

課題は、被害が膨大であり把握できていない（山林・雑種地・転作田利用の牧草地除染集約が困難。風評被害など）、汚染された堆肥、稲わら、牧草の処理、代替粗飼料（輸入先の収穫量不足・品質低下・価格高騰。一時的な需要であることから配送車両・運転手・運送業者・倉庫の確保が困難。物量が多すぎて農家の希望する品種への対応が困難など）、牧草地再生対策（タンカルの物量が多く、製造・流通が追い付かず確保が困難。効果が確実でなく、技術的にも確立されておらず試行錯誤の状態）、椎茸（新しいホダ木の確保が困難。ホダ木の補償は未確定など）、誰もが未経験で手探り状態で先が見えない。無駄も多く、疲労が関係者を精神的に追い詰めていると述べました。

震災復興にとっても大きな影響を及ぼすTPP参加問題では、地域の32団体が加入して「TPP参加反対両磐地域の会」を結成。多くの人にTPPの真実を知らせる活動を広げていることを紹介しました。

### 報告2

ふくしま土壌クラブの高橋賢一代表が「放射能汚染に立ち向かう果樹農家グループ ふくしま土壌クラブの取り組み」について報告。

同クラブは、大津波、原発事故、風評被害によって、福島全体の活力が無くなりそうになる中で、生産意欲を捨てず、考えられる最善の対策を施し、精一杯果樹栽培に取り組みとうという志を同じくする若い世代の果樹栽培農家で組織。これまで、除染の取り組みと効果の検証、情報の発信、関係団体との協力

に取り組んできた。現在の活動の意義は、風評被害の対策、消費者の意向調査、個々の経営での取り組みにある。

最初は、線量を下げることと環境を変えることを目的にしてきたが、これからは、データを活かした販売対策・風評被害対策（効果的情報発信、販売方法の見直し・改善）、

現実的学習を中心とした農業経営改善に向けた取り組み、作業環境を改善するための活動を中心に取り組んでいくと述べました。

同代表は、最後に、自分たちは自分たちの利益のためだけに活動してではなく、福島全体の再生を意識して活動している。また、問題になっているTPPについては産地の崩壊につながるものだとしており、実状に合った活動をすすめていくと述べました。

### 意見交流

神田支部長を座長に参加者全体で行った意見交流で



は、福島農協労連の紺野茂美委員長から、JA新ふくしまの放射線除染の取り組みについて報告があり、全国・地域で農畜産物出荷のための放射線基準にバラつきがあるのは危険で、無用な風評を拡大するだけだと問題点も指摘されました。

福島大学・特任助教の小松知未先生からは4段階の



安全対策（測定器活用）＝第1段階（農地測定・土壌分析）、第2段階（吸収抑制対策・予備検査）、第3段階（食品検査・本検査）、第4段階（いつでも確認できる体制・消費地検査）について、また、米にあって農地の汚染確認には予算がないことや福島の米対策には50億の予算があることから逆に風評が拡大し、

流通がなかなか戻らない状況があることなどが報告されました。

この他、報告者の千田課長は「人間が制御できない原発は不要だ」。高橋代表は「原発による福島のこれまでの恩恵は、事故後には換えられない」。講師の中嶋先生は「国民の人権保障がいまいだから除染も復興も進まない。TPPは市場原理によるもので絶対に必要か。地域経済循環を軸に考えるといろんなモノが変わってくる。しっかりとした思想闘争が必要だ」。座長の神田支部長は「青森でも台湾へのりんご輸出激減など風評被害はある。また、原発再稼働や大間原発の建設再開、六ヶ所核燃サイクルの問題、TPP参加問題、沖縄に代表される軍事的課題など、新自由主義を軸とした社会構造がもたらしている」。と発言。他にも数名が発言し、最後に、東北支部幹事の渡辺基先生（元岩手大学教授）が、この国のあり方・社会のあり方・農業のあり方など、根本を変える運動・取り組みが大事だとあいさつ、閉会しました。

### 現地視察（2日目）

川俣町山木屋地区の視察には21名が参加。最初に役場を訪問し、古川道朗町長と懇談。想定外の原発事故を受けて避難した当初の苦労、その後の放射能除染の対応や諸問題での国との協議・対応、現在の状況などについて説明をいただきました。

計画的非難地区に指定されている同地区は、農業が盛んな地域だったが、タバコ栽培は壊滅、米は栽培できず、小菊農家も3軒しか残っていない、にんにくも復活に向けて青森の田子町で自主的に勉強してきている農家もいるが、全体としては農業はやっていない（やれない）。

山木屋の復興・再生は、農業の再



生を軸とした生活再建が不可欠。今後ともさまざまな支援をお願いしたいと話しました。



( 3 ) 農農研東北支部だより

古川町長と懇談後、原発事故後に設けられた町の原子力災害対策課の澤口進課長の案内で、居住地（生活圏）、農地、山林などの除染の方法や進捗状況の説明を受けながら山木屋地区へ移動。現地では、削り取った表土等の仮置き場（実際は仮の仮置き場）などを視察しました。

同地区は、特別な許可がなければ入れないため、福島の参加者でも初めての方が多く、視察後、参加者一同、非難生活を強いられてる人たちのくらしと生業の再建はもとより、食の安全・安心のためにも原発と関連施設は必要ないという思いをいっそう強くしました。

第 2 2 回総会

1 日目の研究例会後に行われた総会では、2012年度活動方針と予算、役員体制などを確認。

活動の中心である研究例会は、東北各地の取り組みなどを学ぶために今後も各県で開催。来年は秋田で行うことを決定しました。

役員体制では、長年、支部長や幹事を担っていただいた元岩手大学教授の渡辺基先生が今回退任されました。今後は一会員として参加されるとのことです。（お疲れ様でした）



現在は使われていない山木屋小学校



山木屋小学校グラウンドの仮置き場



道路横の仮置き場



道路横の仮置き場



道路横の仮置き場



地区内の試験田

農農研東北支部役員体制（2012年度～2014年度までの2年間）

役 職	氏 名	所 属 等
支 部 長	神 田 健 策	青森県・研究者（弘前大学農学生命科学部教授） 研究所理事
副 支 部 長	木 村 純 一	全農協労連東北地本委員長（宮城県農協連合会労組委員長）
常 任 幹 事	小 山 良 太	福島県・研究者（福島大学経済経営学類准教授）
"	冬 木 勝 仁	宮城県・研究者（東北大学大学院農学研究科准教授）
"	横 山 英 信	岩手県・研究者（岩手大学人文社会科学部教授） 研究所理事
事 務 局 長	前 田 晴 茂	青森県農協労組書記長
幹 事	相 馬 崇 志	青森県農協中央会労組副委員長
"	柴 田 鉄 章	秋田県農協労組委員長
"	佐 藤 加 寿 子	秋田県・研究者（秋田県立大学生物資源科学部准教授）
"	細 川 忠 雄	岩手県農協労組副委員長 研究所常任理事
"	斉 藤 裕	山形県農協労組書記長（全農協労連中央執行委員長）
"	尾 形 忠 明	福島県農協労連書記長
"	梶 谷 貢	宮城県食健連事務局長
"	岡 田 孝	宮城県農協労組書記長
"		山形県・研究者 未定
監 事	田 村 幸 一	青森県中央会労組執行委員
"	山 本 淳 一	青森県農協労組委員長